

## 世界の公共放送にみる番組基準

### —放送とジェンダー、マイノリティ市民を考えるために—

イギリス BBC、カナダ CBC、オーストラリア SBS、日本 NHK

本誌 81 号では、社会的制度としての放送メディアを考えるための特集シリーズの一環で、BBC の「制作者のためのガイドライン」の中から、「暴力」、「模倣される反社会的行動」に関する番組基準を訳出した。本特集では、グローバル・メディア・モニタリング・プロジェクト (GMMP) との関連から、さらに「ジェンダー」と「マイノリティ市民」のメディア上の表現に関して、イギリス、カナダ、オーストラリア、の公共放送が Web 上で公開している番組基準を取り上げる。日本の公共放送 NHK の国内番組基準を併載するのは、それを私たちが世界各国の公共放送の基準とどのように異なるかを比較検討し、ジェンダーやマイノリティ市民について必要な基準を具体的に提案していきたいと考えるからである。そうした積極的な提案こそがいま私たち市民にできる行動であろう。

---

#### BBC 「制作者のためのガイドライン」

##### BBC Producers' Guidelines

#### 第 9 章 描写

##### Portrayal

---

#### 1 概要

BBC は英国社会のすべての部分に対し奉仕する責任を持つ。BBC の国内サービスは、国家の構成要素を反映し表現することを目的としていなければならない。世界的には、BBC はすべての国際サービスに対して公平な描写という原則を適用しなければならない。そして放送される人びとや国々のバランスの取れた姿を提供するよう努めなければならない。

私たちは、英国連邦や世界に住む人びとおよび文化に関して、充分でかつ公平な見方を提供するよう努力しなければならない。BBC の番組とサービスはこの多様性を反映し、それを描きださなければならない。そうすることで私たちはオーディエンスに対し、番組

を豊かにする新しい才能や見方、顔、声を紹介するのである。

社会集団を描写するときに、ステレオタイプは避けるべきである。しかしまた、存在しないような社会を描き出してしまう危険性にも気づいていなければならない。BBC は社会工学のビジネスに従事しているのではない。私たちは偏見と貧困が存在することを報道し、番組に反映する必要がある。しかし、決してそれらを固定化してはいけない。

異なる集団について説明するときに便利な経験則は、人びとに自分自身をどう説明するかを聞いてみることである。彼らが自分たちを別の言葉で表しているとすれば、それには十分な理由があるはずである。

英国連邦を構成する各国の描写に関するより詳細な助言については「第 19 章：英国を報道する」を参照のこと。

#### 2 共通の懸念

番組のなかで自分たちが十分に表現されていない、あるいは不適切な描写をされていると感じている集団すべてに共通する幾つかの

懸念がある。

## 2.1 放送における不十分な表現

すべての集団の人たちが広範囲にわたる番組のなかで表現されていなければならない。番組では、参加者や出演者を広範囲の人びとから募らなければならない。白人の健常者に不当に集中させてはならない。BBCには専門番組や番組局、BBC多様性データベースがあるので、番組制作者はそれを使って表現される人びとの範囲を拡大することができる。さらに詳細な助言は放送平等局に求めることができる。

## 2.2 有害・不正確なステレオタイプ

人びとは現実を反映する様々な役割で登場しなければならない。BBCの番組では黒人の人びとを犯罪者として、女性を主婦として、障害のある人を犠牲者として、ゲイの人びとを無力な人として、高齢者を無能力者だとして、特定の専門職や仕事を持つ人びとおよび特定の階層の人びとを必然的に笑いの対象として、分類してはならない。

## 3 女性

英国において女性は人口の多数を占めている。法律ができ人びとの態度も変化しているにもかかわらず、いまだに女性はいくつかの点で差別され、番組において十分に表現されていないことが多い。高齢の女性は、特に番組のなかで表現されることが少なく、その描写は多くの場合、限定されたものとなっている。

男女差別のない用語の使用は、特定の活動が一方の性のものであるという印象の固定化を避けるための一つの方法である。女性が多くの仕事から閉め出されていた時代の用語 (firemen, policemen, taxmen, newsmen, manning : 消防士、警官、タクシー運転手、記者、スタッフ) に対しては、現在は、差別

的でない響きの良い別の用語 (firefighters, police officers, tax inspectors, journalists, staffing) がある。

差別的でない用語の使用に対して心地よく感じない人もいる。性差別と政治的な差別用語禁止の両方を避けるために、文章自体を書き直すことは常に可能である。しかし、当事者が自分たちをどう紹介して欲しいかについては、その人たちの要望を尊重しなければならない。誰かが自分を組織の「Chair (議長)」だと言ったときには、私たちがその人を Chairman とか Chairwoman と言ってはならない。また、その逆も同様である。

## 4 エスニック・マイノリティ

他の多くの特徴があるにもかかわらず、人を人種や肌の色だけで特定することは偏狭である。肌の色はそれが妥当性を持つときだけに限って使用されるべきである。同じような条件下で果たして自分が「白人」と言うかどうかを、そのたびに問いかけることが必要である。

### 4.1 用語

「エスニック・マイノリティ」という言葉は普遍的に「黒人」を指す言葉ではない。白人もエスニック・マイノリティであり得る。

肌の色より地理的または民族的出自の方が妥当性を持つ。「バングラデシュの人」「ジャマイカ人」「ウェストインディ人」「ナイジェリア人」などである。

一般に「黒人」は、アジア人を含めて使用すべきではなく、「黒人とアジアの人びと」あるいは「アジア、アフリカ、カリブ海の人びと」と言い表す。「非黒人」と私たちが言わないのと同じように「非白人」と呼ぶことも避ける。

英国のアフリカ、カリブ海出身の多くの人びとは「黒色英国人」(black British)と呼ば

れることを好む。「黒人」(blacks)と呼ぶのではなく「黒人の人」(black people)という用語を使う。

経験則としては、その人たちに自分たちをどう説明するかを聞くことである。別の呼び方をするのであればそれには何か理由があるはずである。

#### 4.2 誤解を生むイメージ

英国に住むエスニック・マイノリティのほとんどは英国人である。多くの人がこの国で生まれておりその数も増加している。彼らは英国社会全体の一部なのである。

黒人とアジア人は否定的なステレオタイプ化に非常に苦しんでいる。番組では、原稿にある不快な推測や一般化を許してはならないし、そのような発言を含むインタビューに対しては、可能な限り異議を申し立てる必要がある。

### 5 障害を持つ人びと

障害を持つ人びとの描写、表現に対する配慮は、特にその障害が何であるかが非常に広範囲に及ぶので複雑な課題となる。英国の人口の4人に1人は障害を持つか、または障害を持つ人の世話をしている。発展途上国ではさらに障害を持つ人びとが多い。障害を持つ人びとは常に番組内で充分には表現されていない。

編集上の統一と力強さを失わないようにしながらも、番組が障害を持つ人びとの権利と尊厳に対して敏感であることは可能である。障害を持つ人びとは庇護されるべきではない。障害を持つ人びとを「勇敢なヒーロー」や「哀れむべき犠牲者」として描くようなステレオタイプの思考は、多くの場合、気分を害させるだけである。

番組制作者はBBCの字幕に関する方針や、視覚障害を持つテレビ視聴者のガイドライン、

障害者差別に関する1995年法に基づくBBCの義務に関連するその他のBBCガイダンスの内容を周知していなければならない。

#### 5.1 用語

婉曲表現は必要ではない。シンプルな実際的な言葉が良い。

・「障害者」(The disabled)は感情を害する用語と見なされる可能性がある。この言葉は、その人たちを問題のある集団として定義しており、個人を否定している。ある人たちは「障害者たち」(Disabled people)を受け入れることができるが、「障害を持つ人たち」(people with disabilities)のほうを好む人もいる。BBCの番組はこの両方を使用している。

・「身体障害者」(the handicapped)と呼んではならない。「欠陥を持つ」(invalid)、「痙性的」(spastic)、「知恵遅れ」(retarded)や「欠陥のある」(defective)といった言葉は広く感情を害する。

・「目の見えない人」(the blind)や「耳の聞こえない人」(the deaf)といった用語は嫌われる。「～が不具」(Crippled with)、「～の犠牲になる」(victim of)、「～に苦しむ」(suffering from)、「～に冒される」(afflicted by)などは避けるべきである。「～を持つ人」「～のある人」(People who have' or 'a person with)は一般に明確で、事実を伝え、感情を害することがない。

・しかしながら、障害を持つ人自身が自分を「盲人」(blind)、「聾者」(deaf)「身体障害者」(crippled)と表現することがある。私たちは侮辱しないようにしつつ、彼らが自分をどう呼ぶかについては彼らの意志を尊重すべきである。

・現在では普通、知的障害を持つ人は「学習困難な人」(people with learning difficulties)と表現される。「精神障害」(mental handicap)

はある人には受入れられるが、他の人には不名誉であるとしていやがられる。

- ・「学習困難」(learning difficulties)は「精神病」(mental illness)と混同してはならない。
- ・聴覚障害については正確さを期す。「聴覚障害、部分的聴覚障害、耳が聞こえにくい」(deaf, partially deaf, deafened, hard of hearing)を使用する。「耳が聞こえず口がきけない」(deaf and dumb)は容認できない。

車いすを使用する人は「車いすに縛られた」(confined to a wheelchair)や「車椅子に束縛された」(wheelchair-bound)といった表現を嫌う。これは車椅子が束縛しているのではなく、移動を可能にしているからである。「車椅子を利用する」人(uses a wheelchair)あるいは「車椅子に乗っている」(is in a wheelchair)人が好ましい。

## 5.2 共通の課題

障害が常に外見上、明白であるとは限らないが、障害は日常的現象である。このことをBBCは、フィクションや事実に基づく番組のなかで反映しなければならない。障害を持つ人びとは、当然ながら、放送でその障害の事実を示す必要が無いような形で娯楽番組に参加出来なければならない。それが妥当性を持つ場合に限って、その人の持つ障害についての説明をする。

## 5.3 目の不自由な人(blind)、視覚障害を持つ人(visually impaired)へのインタビュー

インタビューでは、目の不自由な人、弱視の人が経験しているかもしれない困難に注意を払う。テレビでは目の不自由な人が望むような形で自己紹介するのを補助する。安全に問題がある物がどこにあるかを説明する。

## 6 宗教団体の描写

厳密にそれが妥当性を持たない限り、人び

とや国を宗教で特定してはならない。特定の宗教集団や宗派がすべての人びとの信念を代表しているように描写してはならない。

軽率な描写は不快である。特定の信仰が、それを信じていないすべての人に敵対しているとか、異質であると暗示している場合は特にそうである。例えば、イスラム世界全体を説明するために、シュプレヒコールしているイスラム活動家の群衆の映像を用いてはならない。

「原理主義者」や「過激派」といった言葉は注意深く扱わなければならない。ある集団にとって公正な記述が、類似のすべての集団にも当てはまるとは限らない。「イスラム原理主義者」といった用語を使用するときは、私たちがキリスト教原理主義者、ヒンズー教原理主義者といった表現を用いて語るかどうかを吟味してからでなければならない。(第6章「趣向と品位」のセクション5「国際的オーディエンス」、セクション9「宗教的感性」を参照のこと)

## 7 性的志向

BBCの番組は偏見を媒介するものであってはならない。レスビアンやゲイの人たちは特に、思慮のない不快なステレオタイプの対象にされやすい。

ゲイやレスビアンの人たち、また両性具有の人びとは、BBCの公正なサービスと取り扱いを受ける権利を持つ重要な少数者である。番組制作者は、ホモセクシュアルの人びとが、社会で多様な役割を果たしていることを忘れないようにする必要がある。彼らは他の人びとと同じように、その多様性が誠実に描かれているのを見る権利がある。

### 7.1 ステレオタイプ化

描かれているゲイの登場人物が、ゲイであるという理由だけで登場している、あるいは

ゲイであることだけが主要な特徴であるといった場合には、ステレオタイプ化は特に危険である。性的志向は偶発的な特徴である可能性もあることを忘れないようにしよう。私たちは同性愛を、服装倒錯や性転換と混同してはならない。これらは両方ともセクシュアリティとは特に関係はない。

番組は、不快な仮定や一般化がみられる脚本を認めてはならない。インタビューされている人がそんな表現をするときには、強く異議を申し立てる必要がある。

## 7.2 性の認知

それが妥当性を持つ場合は、公認されている著名人の同性愛やそのパートナーの同性愛には率直に言及すべきである。これは、例えば、プロフィール、死亡広告、その他、厳正な妥当性を持つ文脈において、あるいは同性愛の関係に言及する妥当性を持つと考えられる場合に起こりうる。しかしながら、BBCはセクシュアリティに関わる事実の公開を強制するものではない。他の問題と同じように、このことについても強くプライバシーを尊重している。

## 7.3 用語

言葉が持つ効果には、敏感でなければならない。「同性愛」は広く流布している言葉である。「ゲイとレスビアン」の方が、好まれることが多く、確実に受け入れられる。事実に基づく番組で「クィヤー、レズ、おかま、ホモ (queer, dyke, fairy or poof)」といった言葉の使用はありえない。登場者がこれを軽蔑的に使用した場合は、どんな場合でも意義を申し立てなければならない。

これらの言葉がドラマの登場人物によって使用された場合は、人種侵害と同様に繊細な問題として慎重に考慮されなければならない。

## 8. 高齢者

多くの高齢者は活発で充実した生活をおくっている。高齢者は、余生をおくり、依存的で、虚弱で、性的に不活発で、受動的であるというように描かれるイメージは、有給雇用、家族扶養を終えた人たちが、多くの場合、多忙で、活動的で有用な人材であるという事実を無視したものである。

年齢に言及することは、必ずしも能力や関心、精神状態、健康などについて語ることはならない。年齢への言及はそれが妥当性を持つときだけにすべきである。

それがオーディエンスであれ、競技者、競争者、あるいは芸能人であれ、BBCは番組の参加に関して一般的な上限を設けていない。

唯一の基準としては、必要とされることを行う能力があるかどうかである。

描写に関する広範囲の問題に関しては、部長や委員会役員に助言を与え支援するチーフアドバイザーや編集指針を活用することができる。

(訳責：宮崎寿子)

— 『fctGAZETTE』 No. 85 (2005年3月) 掲載 —